

全国統一小学生テスト 対策授業

国 5 年 生
語 生

① 説明文の読み方

◆ 接続語の用法

接続語は、「言葉と言葉」「文と文」「段落と段落」などのつながり方を示す大切な言葉です。その働きによって次のように分類されます。

- ① **順接**：前のことがらが原因・理由となり、その当然の結果・結論が後にくる
だから・したがって・それで・そこで・すると・ゆえに など
- ② **逆接**：前のことがらと逆になるようなことがらや、くいちがうことが後にくる
しかし・だが・けれど・ところが・でも・が・しかるに など
- ③ **並立（並列）**：前のことがらと後のことがらが対等な関係でならべられている
また・ならびに・および など
- ④ **添加（累加）**：まえのことからに後のことがらをつけ加える
そして・さらに・そのうえ・それから・しかも・それに など
- ⑤ **説明**：例を示したり、理由を述べたり、言い換えたりしてくわしく説明する
例示：具体例を示す
たとえば・いわば など
理由：理由を述べる
なぜなら・というのは など
換言：言い換える
つまり・すなわち など
補足：補い、条件などをつけ加える
ただし など
- ⑥ **選択**：前のことがらと後のことがらを対比したり、そのどちらかを選ぶことを示したりする
あるいは・または・それとも・もしくは など
- ⑦ **転換**：前のことがらから話題を変えたり、話題を限定したりする
ところで・それでは・さて・では・ときに など

◆ 指示語の用法

文章を読むときは、指示語の指し示す内容をきちんととらえることが大切です。指示語は、主に直前に述べた内容を受けて、くり返しをさせて、後につながる言葉です。指示語が指し示す内容は、「単語や語句」、「一文」、「いくつかの文」、「一つの段落」、「いくつかの段落」とさまざま場合があります。前後をていねいに読み、指示語がどういうことを指しているのかをおさえながら読み進めることが大切です。

指示語の種類

指すもの	自分に近いもの	相手に近いもの	どちらからも遠いもの	はっきりしないもの
ものごと	これ	それ	あれ	どれ
場所	ここ	そこ	あそこ	どこ
方向	こちら	そちら	あちら	どちら
ものごと	この	その	あの	どの
様子	こう	そう	ああ	どう
子	こんな(だ)	そんな(だ)	あんな(だ)	どんな(だ)

◆ 文章の組み立てを考える

説明的文章をより正確に読み取るためには、文章全体の組み立てを考える必要があります。

① 形式段落ごとに要点を読み取る

各形式段落の大事な内容を「**要点**」といいます。この「**要点**」を読み取るには、形式段落ごとの「**話題**」を読み取り、形式段落をまとめる役割をする「**中心文**」をみつけることが大切です。

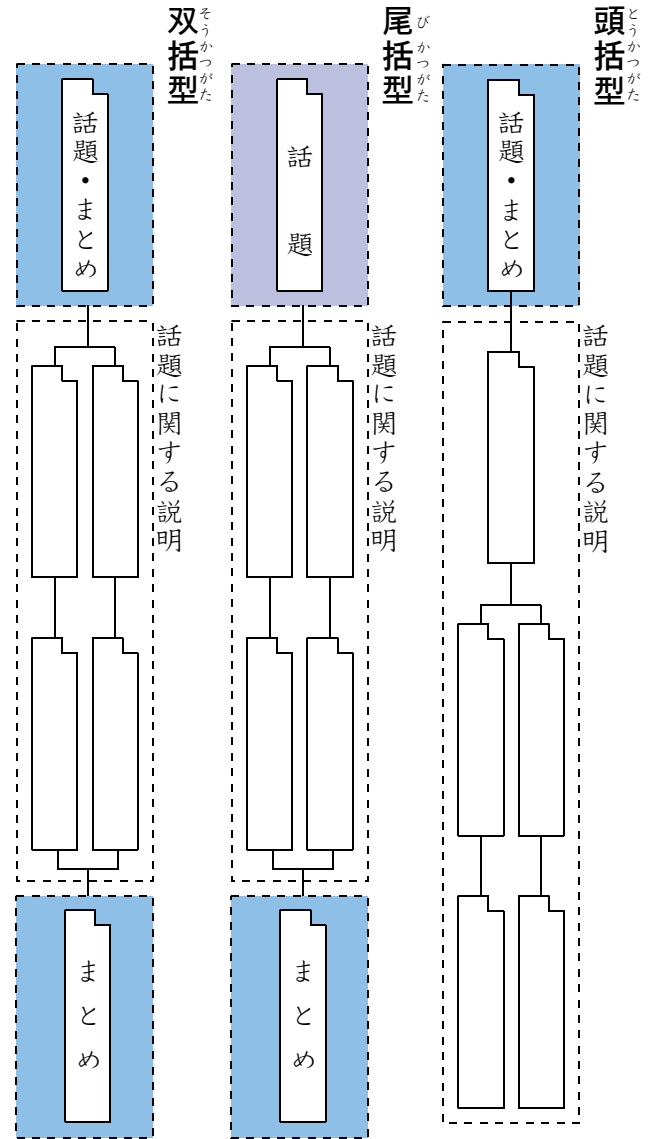
② 文章全体を意味段落にまとめる

形式段落ごとの話題と要点を読み取り、くりかえし出てくる重要語句(キーワード)をチェックすることで、となり合う形式段落の話題や内容が共通しているかどうか、連続しているかどうか、もしくはちがう話題に移ったのかどうかなどを考え、意味段落にまとめます。

③ 文章全体における意味段落の役割を考える

- 話題を提出する「**話題段落**」
- 結論(まとめ)を示す「**結論段落**」
- 具体例を示したり、理由・原因などを述べる「**説明段落**」

④ 説明的文章の組み立てにはいくつかの基本パターンがあります。



◆ 文章の要旨を読み取る

説明的文章において、筆者がその文章を通して最も言いたかったことを「要旨」といいます。「要旨」を読み取るには、

- ① 「結論段落」をみつける：文章の最初か最後、あるいは両方
- ② 「結論段落」の中心文（まとめ）をみつける
- ③ 文章を「要約」する

「要約」とは、説明的文章の大事なところを落とさずに短くまとめることです。文章全体を要約するには、「要旨」をふくめて文章全体の要点をまとめるようにしましょう。

② 物語文の読み方

◆ 場面と登場人物を読み取る

① 場面を読み取る

- 「場面」とは、物語や小説などの話の筋（ストーリー）を
- ・いつ（時）
 - ・どこで（場所）
 - ・だれが（登場人物）
 - ・どうした（できごと）
- という四つの点からとらえたひとまとまりの部分のことです。この四つの点に注意して読み進めることで、ひとつのまとまりとしての「場面」をとらえ、場面から場面への変化（場面展開）も正確にたどることができます。

② 登場人物を理解する

- 物語や小説の中では、さまざまな人物がいろいろなできごとをおこします。登場人物を理解するには、次のことに注意しましょう。
- ・登場人物と人間関係をつかむ
 - ・同一人物が別の呼び方で表現されている場合もあります。
 - ・登場人物の性別・年齢などや、気持ち・行動をつかむ
 - ・登場人物の間の心理的な関係をつかむ
- 人物同士がおたがいどんな感情をいだいているかを理解しましょう。

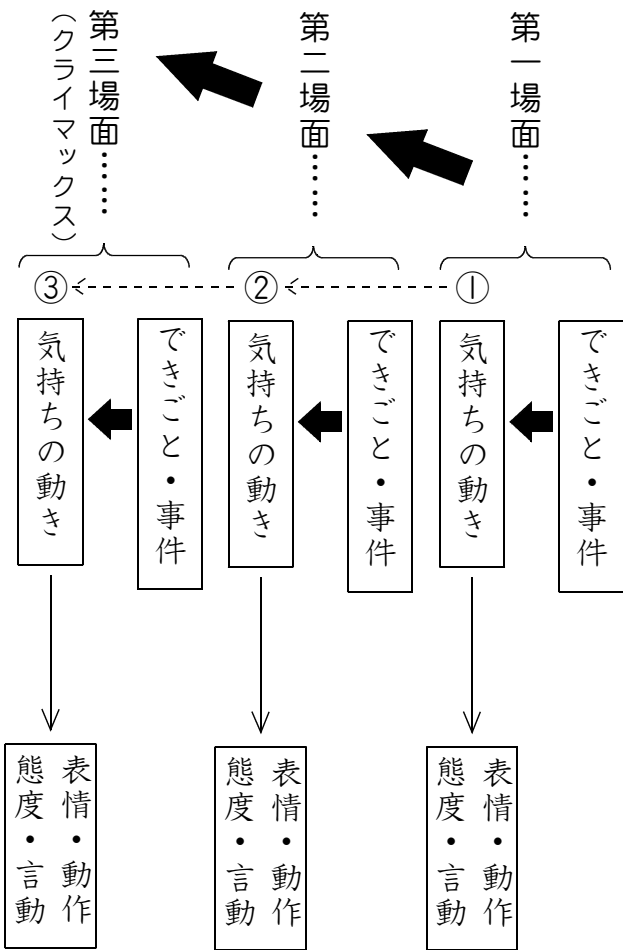
◆ こころの動きを追う

物語や小説の作者は、自分の考えや理想を主人公や登場人物を通して読者に伝えようとしています。それぞれの場面で登場人物がどういう言動をとるか、その背後にある心の動きや考えを観察するように読みましょう。

① 登場人物の気持ちや心の動きを読み取る

- 主人公の人間像や性格を読み取ったり、場面の理解を深めたりするためには、場面ごとのできごとに対する人物の心の動きや考えと、その表れである言動との結びつきを読み取ることが大切です。
- ・心の動きを**直接描写**している部分に注目する。
「喜ぶ」「さびしい」「…と感ずる」などの表現に着目しましょう。
 - ・心の動きを**間接描写**している部分に注目する。
人物の言葉や表情、態度、様子、行動などから気持ちや考えを読み取れます。また、周囲の情景をえがくことで人物の気持ちを描写することもあります。間接描写の部分は、場面全体の展開や因果関係、時代背景などをもとに人物の気持ちを想像しながら、読み進めるとよいでしょう。

② 登場人物の気持ちや心の動きを読み取る
場面が移り変わるとともに、登場人物の気持ちが変わっていききます。気持ちの変化をひきおこすきっかけとなる「できごと・事件」に注目し、それを登場人物がどう受けとめるかによって「気持ち」の変化が生じるのです。



◆ 主題をつかもう

物語において、作者がその文章を通して最も書き表したかったことを「主題」といいます。作者は登場人物を通して「主題」を表現するので、登場人物の人間像をとらえることが、「主題」を読み取るうえでも大切です。

① 登場人物の性格や人物像をとらえる
その人物の性格を直接表している言葉だけでなく、言動や考え方、その人物に対する周りの人の態度などからも、人物像が見えてきます。

② 山場（クライマックス）をよみとる
物語のなかで、心を動かされたり共感したりして強く心に残った場面や、劇的にできごとが変化して話がもりあがる場面を「山場（クライマックス）」といいます。どのようなことに心を動かされたのか、できごとに変化をもたらしたものが何なのかを考えると、主題が見えてきます。

③ 文章問題にチャレンジ!

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

プロのスポーツ選手がはくような立派なランニングシューズを、父さんがぼくへのおみやげに買ってきてくれた。きつと、また前みたいに元気に走りまわれることにちがいない。でも、飼いか犬のバウがいなくなってしまうのに、ひとりでなんか走る気にならないとぼくは思った。

バウは、ぼくの目の前で、自動車にひかれて死んでしまった。

しば犬の子犬だったバウ。母さんのかけるそうじ機をこわがって、部屋じゅうをにげ回った子犬。初めてとったばったを、得意になって持って帰ったら、ほめてもらえるどころかしかられてしまったちっちゃな犬。そうして、なによりも、ぼくと走るのが大好きだったぼくの友達。

全くバウは走るのが大好きだった。子犬のくせにけっこう速い。①だから、あいつとの散歩は散歩にならない。散歩だ。

「バウ、サンソーに行くぞ。サンソー。」

ぼくがひと言、そう言うと、まるでウォーミングアップを始めた選手のように、手足をばらばらにばたつかせた。

バウは、走るのが本当に好きだったんだ。

ア サンソーのとき、ぼくは、学校にはいていつているスニーカーで走った。

だんだんと走るのが上手になっても、ぼくは、学校にはいていくスニーカーで走った。スポーツ選手みたいなランニングシューズがほしいなんて思ったことは、一度もなかった。バウといっしょに、ただ走るだけでおもしろかったから。

②バウがいなくなった次の日から、ぼくは走らない子どもになった。

でも、父さんが買ってくれたランニングシューズは、本当にかっこよかったんだ。その青いランニングシューズのせいで、その夜、ぼくはバウの夢を見た。

夢の中で、バウはやっぱり走っていた。ぼくも走っていた。ぼくはなんだか、久しぶりに幸せだった。

そのうち、バウがどんどん速くなる。いつもはずっと同じくらいの速さなのに、おかしいな、ちっとも追いつけない。

ぼくが、「バウ、バウ。」とよぶと、あいつはちよつとふり向いて、「どうだい。」っていうような顔をして、イ またかけていつてしまふ。

走っても走っても追いつけない。あいつ、いつからあんなに速くなったんだろう。ぼくは体じゆうが熱い。③息がせいせいして、もう走れない。

「こうなんだあ。」

ついにぼくは、そうひと声さけぶと、ウ 草の上にとたりとねころんでしまった。青っぽい、いいにおいがした。大きな声を出したつもりなのに、ぼくの声はかすれ

て、みっともなく聞こえた。バウがもどってきた。

30

25

20

15

10

5

35

40

45

「見ろよ！」

そう言ったバウの声は、あれだけ走って、かすれてもいない。そして、右の前足を、ぽんと、ねころんでまだせいぜいしているぼくの、顔の横にだしてみせた。

バウのやつ、青いランニングシューズなんかはいている。

あれは、ゆうべ、父さんがぼくに買ってくれたものなのに、それをどうしてバウがはいてるんだらう。④そんなの、ずるいや。夢の中のぼくは、そう思った。そして、そう思いながら、またねむってしまった。

朝起きると、ランニングシューズは、ぼくが置いた形のまま、ぼくのつくえの上ののっていた。

ゆうべ見た夢のせいか、ランニングシューズは、昨日より、もっとかっこよく見えた。

エ ぼくは、ちょっとだけ、はいてみたくなった。

はいてみると、ランニングシューズは、ぼくの足にぴったりだった。大きさも、かっこも、ぴったり決まっている。青いランニングシューズをはいたぼくの足は、だれよりも、そう、ゆうべのバウよりも、速く走れそうだった。

「走ってごらんよ。」

オ その時、確かにバウがそう言った。

(石井睦美「五月の初め、日曜日の朝」より)

(1) この文章は大きく三つに分けられます。第二の部分を19行めからとすると、第三の部

分はどこからになりますか。最もふさわしいものを次から一つ選びなさい。

- ① 25行めから ② 31行めから ③ 39行めから ④ 44行めから

ヒント

場面分けの問題です。19行めから、「ぼく」はバウとかけっこをする夢を見ていますね。ですから、「夢」の場面(Ⅱ第二の場面)がどこまで続いているのか考えましょう。その夢が覚めてしまうとどこから第三の場面がはじまります。

(2) 「ぼく」の思い出の中の「バウ」はどんな子犬でしたか。最もふさわしいものを次から一つ選びなさい。

- ① 「ぼく」と走るのが大好きな子犬。 ② ほかの犬よりも速く走れる子犬。
③ 勝手に、外を走り回る子犬。 ④ こわがりで、体の弱い子犬。

- (3) 〜〜線①④の文のうち、「バウ」の死が「ぼく」にとって、とても悲しい出来事であったことを示しているのはどの文ですか。最もふさわしいものを一つ選びなさい。

ヒント

バウと「ぼく」は友達でした。その友達をうしなつて、「ぼく」がどのように変わったのかに注意しましょう。

- (4) —線ア「サンソウのとき、ぼくは、学校にはいていてスニーカーで走った」のはどうですか。最もふさわしいものを次から一つ選びなさい。
- ① 少しでも早くサンソウに行きたくて、学校から帰ってきてからすぐサンソウにでかけたから。
- ② 高価なランニングシューズがほしかったけれども、手に入るわけがないとあきらめていたから。
- ③ 飼い犬といっしょに走るだけで十分満足で、どことなくつをはいているかは問題ではなかったから。
- ④ 立派なランニングシューズよりも、いつもはいている学校のスニーカーのほうが上手に走れたから。

- (5) —線イ「またかけていってしまう」とありますが、このときの様子には「バウ」のどのような気持ちが表れていますか。最もふさわしいものを次から選びなさい。
- ① 自由に走り回れる楽しい時間が過ぎてしまうことを惜しんでいる。
- ② 走るのをやめて体がなまってしまった「ぼく」にあきれている。
- ③ 「ぼく」よりも速く走れることがうれしくて得意になっている。
- ④ 夢の中でいつまでも「ぼく」と遊んでいたと願っている。

ヒント

気持ちを読み取る問題は、できごとや表情、態度などを整理するとわかりやすくなります。このときのバウの表情に注目しましょう。

- (6) —線ウ「草の上にどたりとねころんでしまった」とありますが、このとき「ぼく」が感じていた気持ちとして最もふさわしいものを次から選びなさい。
- ① 久しぶりに全力で走ったすがすがしさ
 - ② どうしてもバウに追いつけないくやしき
 - ③ 大好きなバウに再び出会えたなつかしさ
 - ④ 自分を待とうとしないバウへのもどかしき

ヒント

このときの「ぼく」が、いやな気持ちなのか、いい気持ちなのか、考えることから始めましょう。「青っぽい、いいにおいがした」(29行め)がヒントです。

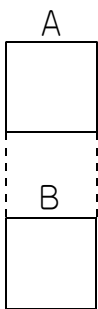


- (7) —線エ「ぼくは、ちょっとだけ、はいてみたくなった」とありますが、その理由を次のようにまとめました。空らん A B にあてはまることばとして最もふさわしいものを、後の①〜④からそれぞれ一つずつ選びなさい。

バウといっしょに走る夢を見て A を思い出したことで、 B から。

- A
- ① バウがない悲しみ
 - ② 父さんのやさしさ
 - ③ 走るたのしさ
 - ④ 犬を飼うおもしろさ

- B
- ① だれよりも速く走りたいという願望をもう一度もつことができた
 - ② ランニングシューズをはくとバウより速く走れそうだと思った
 - ③ 父さんからもらったシューズが足にぴったり合うとわかった
 - ④ 青いランニングシューズに昨夜よりも心がひきつけられた



ヒント

A：バウと走る夢を見て、「ぼく」は「久しぶりに幸せ」(19・20行め)を感じています。このことから、「ぼく」が何を思い出したのか考えましょう。

B：「はいてみたくなった」のは、シューズが「昨日より、もつとかつこよく見えた」(41・42行め)ことと関係しています。シューズを見てどのような気持ちになったのか考えましょう。

- (8) —線オ「その時、確かにバウがそう言った」とありますが、このときの「ぼく」の気持ちの説明としてふさわしいものを次から二つ選びなさい。
- ① 頭の中にとつぜんバウの声がよみがえってきたことでひどく驚いている。
 - ② なつかしい声とともにバウの思い出が浮かび、立ち直る勇気が生まれている。
 - ③ バウが死んだ悲しみを乗りこえようとする力が少しずつわき起こっている。
 - ④ バウのために自分は再び走らなければならないのだと固く決意している。
 - ⑤ バウはいつまでも自分の心の中で生きているのだということを強く感じている。

ヒント

バウは死んでいるはずですから、ことばが聞こえるはずはありません。しかし、「ぼく」は「走ってごらんよ」と言われたように感じています。それは夢を見て「ぼく」の気持ちが変わったためです。バウと走った夢が、「ぼく」にとってどういう意味があったのか考えましょう。

4 言語要素問題にチャレンジ！

◆慣用語

二つ以上の言葉が結びついて、それぞれの言葉のものと意味とは異なる、特別な意味を表している言葉を慣用語といいます。

(1) 慣用語の意味

- ① 耳が痛いので、耳鼻科に行った。
 - ② 先生の注意を聞くのは耳が痛い。
 - ①の「耳が痛い」は、病気などで実際に耳がズキンズキンと痛むことを表しています。これに対し、②の「耳が痛い」は、自分の悪いところや弱みを人に言われて、聞くのがつらい様子を表しています。
- つまり、②の場合の「耳が痛い」は、「耳」「痛い」という二つのそれぞれのもとの意味をはなれ、特別な意味を表すようになったもので、このような言葉を慣用語といえます。

慣用語には、体の一部を表す言葉を使ったものや、日常生活に關係の深い道具や品物を使ったもの、また、身近な動・植物をうまく使ったものなどいろいろあります。

(2) 慣用句の意味の調べ方(国語辞典を利用します)

例 足を洗う

① 国語辞典で「足」の見出しをさがします。
 ② 「足」の意味を説明したあとに、「足がつく」「足を洗う」「足を引っぱる」など、「足」で始まる慣用句が五十音順に並べられているので、そこからさがします。

チャレンジ問題①

次の(1)～(4)について、慣用句の意味として正しいものを、それぞれ一つずつ選びなさい。

- (1) 鼻をあかす
 ① お金を不足なくそろえる
 ② 味方をする
 ③ だしぬいてあつと言わせる
 ④ ほっと安心する
- (2) きもをつぶす
 ① 予定以上の出費で赤字になる
 ② たいへんびっくりする
 ③ 自分の力では解決できない
 ④ あきあきしていやになる
- (3) 顔にどろをぬる
 ① ひどくて見ていられない
 ② はじをかかせる
 ③ へたばってしまう
 ④ とてもかなわない
- (4) 舌をまく
 ① たいへん感心する
 ② 技術が上達する
 ③ まちどおしく思う
 ④ とても好きである

解答らん

(4)	(3)	(2)	(1)
①	①	①	①
②	②	②	②
③	③	③	③
④	④	④	④

◆ものの数え方

数を表す言葉の下につけて、その物の種類や単位をしめす言葉を助数詞と言います。

例 一つ 七人 五本 三月三日 八時

右の例の——線部の語が助数詞です。主な助数詞を覚えておきましょう。

主な助数詞

家 椅子 衣類	軒・戸・棟 脚	汽車 (車両) (運行)	両
(組になったもの)	枚・着 揃・領	キャベツ 鯨	本
(重ねてたたんだ和服)	重・襲 羽・襲	薬 (散剤・こな薬)	株・玉・個
ウサギ	丁・杯	(錠剤)	頭
うどん (料理)	玉	靴・靴下	服・貼・盛 錠・粒
(材料)		魚	足
馬 (人が乗ったもの)	頭・匹	新聞	尾
鏡	面	たんす	部
傘 (和傘)	張 葉・枚	手紙	棹
		豆腐	本
		箸	通
		和歌	札
			本
			膳
			具
			揃
			首

チャレンジ問題②

次の①～⑤の——線部の数え方がまちがっている場合は下の①～⑦の中から正しいものそれぞれ一つずつ選び、正しい場合は⑧を選びなさい。

- (1) 椅子を一台もってきなさい。
- (2) とうふを一枚買っておいで。
- (3) 詩を一編作ってみよう。
- (4) 箸を一本用意する。
- (5) 書類を一個受け取る。

解答らん

(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
①	①	①	①	①
②	②	②	②	②
③	③	③	③	③
④	④	④	④	④
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤
⑥	⑥	⑥	⑥	⑥
⑦	⑦	⑦	⑦	⑦
⑧	⑧	⑧	⑧	⑧

- ⑦ 斤
- ④ 脚
- ① 足
- ⑤ 丁
- ② 通
- ⑥ 膳
- ③ 着